



# ぶんりだより



東京文理学院高等部

令和四年度 第二号

発行日 令和四年七月八日

## 「変化の効用」

学院長 小野塚 雅信

まだ七月に入ったばかりというのに、初夏の薫風を楽しむどころか、すでに盛夏の熱風にげんなりする。今年も一風変わった夏になりそうな予感が早くもしますね。そのような中、体調を維持するだけでも大変な時期ではありませんが、無事に夏休みを迎えられたことを嬉しく思います。

人は常に気候の変化を受け入れながら進化を続けてきました。猛暑が続けば少しでも熱を逃がす方法を生み出すと同時に、涼を楽しむ方法も探してきました。極寒の季節は、どうしたら暖を取れるかを考えると共に、その風情を楽しむ手段も編み出してきました。夏の風鈴の音色や、冬の雪ダルマは厳しい季節の中にあっても、こころを和ませてくれますね。このように、ただ状況を負と捉えるのではなく、与えられた状況の中でいかに楽しむか、生活を豊かにするかを考えて、我々は進化を遂げてきたのです。

変化といえば、気候の変化だけでなく、環境の変化も時に人を悩ませます。見慣れたいつもの風景が急に変わったたり、周囲の人間関係が変わったりすることは、少なからず人のこころに動揺を与えます。出来れば変化のない慣れ親しんだ環境で毎日を送りたい。そう考える人も多いでしょう。しかし、環境の変化は、自身のこころを強く逞しく成長させる大きな要素となります。

新しい環境にどうすれば適応出来るだろうか？そう考えること自体がすでに一歩成長です。考えて、それを行動に移す。良い結果に結び付けばそれは単純に自信となり、思い通りの結果へと繋がらなければ、では次はどうしたら良いだろうかとまた考える。この思考と行動の反復が内面の成長、つまりこころの鍛錬に繋がっていきます。

今年度は、ここ数年実施が出来なかった学校行事も少しずつ再開出来ました。そしてこの三か月間を振り返ると、皆さんは行事だけではなく、新しいクラスや新たな人間関係など、沢山の環境の変化に直面したはずで、考えたり悩んでいる最中は、そのことが成長に繋がっているとはなかなか思えないかも知れませんが、確実に未来を拓く礎になっていますので、安心してください。皆さんの登校が再開する向秋の季節の到来を楽しみにしています。

## 八・九月行事予定

### 八月

三日～五日 運動部合宿(千葉)

九日 三年 模擬試験

十七日～二十三日

三年 三者面談

二十九日 学年集会・避難訓練

三十一日 体育

### 九月

十日 公開授業日

十二日 公開授業日代休

二十一日・二十二日 前期試験

二十五日 体育祭

二十六日 体育祭代休

二十七日 試験休み

二十八日 試験返却日

二十九日 試験休み

三十日 前期終業式



新型コロナウイルスの影響で、予定が変わることもございます。予めご了承ください。



## 沖縄臨海教室



三年生は、五月十六日から十九日まで沖縄臨海教室に行きました。ここでは、マリンスポーツを楽しみだけでなく、戦跡を巡り、改めて戦争の悲惨さを実感しました。友人たちと寝食を共にし、ひと回り成長できたことが生徒たちの作文から伝わってきます。



三年一組 戸田 愛梨

私は、沖縄臨海教室の事前学習や宿泊実行委員としてしおりの作成に携わったことで、今回の研修の最大の目的である平和学習の知識をより多く身に付けてから、沖縄に行くことができました。

沖縄ではひめゆり祈念資料館や平和祈念堂に行きましたが、インターネットで調べた内容と比べて、実際に現地で見えた写真や聞いた講話はリアルで、その生々しさに衝撃を受けました。そして、戦争の悲惨さをより痛感し、平和について深く考えさせられる機会になりました。

また、集団行動の大切さについても多くのことを学ぶことができました。普段から集団生活を意識するように言われていたが、あまり深く考えず、意識して行動することは少なかつたと思います。しかし、時間や決まりごとを集団で意識し、実行することは思ったよりも大変で、普段から意識的に行動することの大切さに気付くことができました。

大変だったこともありましたが、学ぶことが多い実りある研修旅行になりました。沖縄に行けて本当に良かったです。

### 三年二組 渡瀬 唯人

僕には、今回の修学旅行を終えて心に残ったことが二つあります。

その一つは、平和学習についてです。平和学習では、実際の写真や映像、資料などに見たり触れたりすることができました。その中で、教科書を読むだけではわからないことがまだまだ沢山あるのだと実感しました。また、プライベートでは平和について学ぼうとする機会がなかなかない上、実際に現地に行くこともめつたにできないことだと思うので、自分にとってとても良い経験になりました。

二つ目に心に残ったことは、友達との時間です。今までの高校生活では、宿泊行事の機会がなかったので、友人と泊まりで何かをするということは、一番の楽しみでもあり、不安でもありました。ですが、当日になると、そんな不安はすぐに消えて、とても楽しい時間を過ごすことができました。三泊四日という長い時

間を一緒に過ごしていると、その人の今まで知らなかった新たな一面を知ることができ、絆もさらに深まりました。

今回の臨海教室では、平和の尊さを学び、友達との友情を深めることができました。とても満足いく形で終わることができました。本当に良かったです。この四日間の様々な体験を忘れず、出会うことのできた友達を大切に、残り少ない学校生活を送っていきたいと思います。

### 三年三組 宮川 佳大

沖縄への臨海教室を終え、今感じていることが二つあります。それは沖縄の豊かな自然の素晴らしさと、戦争は二度と起こしてはいけないということ。美ら海水族館やマリンスポーツ、平和学習でそれらを実感することができました。

マリンスポーツの一つであるシュノーケリングでは、たくさんの方に触れました。海の中にいる様々な海洋生物や、サンゴの姿は本当に素晴らしかったです。また、この他にも、シーカヤックやドラゴンボートに乗ったことは印象に残っています。初めは恐怖心がありましたが、少し沖へ出ると、だんだんと楽しさを味わえたことを覚えています。

また、平和学習ではひめゆり資料館を訪れ、そこで見た沖縄戦の写真は、特に心に残っています。ひめゆり学徒隊のほとんどの方が命を落としてしまったことや、防空壕で死を待つしかない方々がいたことも知ることができ、戦争の悲惨さを考えさせられました。様々なことを経験できた臨海教室になり、本当に良かったです。

### 三年四組 堀 泰喜

五月十六日から十九日まで沖縄臨海教室が行われました。この日に向けて、事前学習や持ち物を準備している間、ワクワクが止まりませんでした。

一日目は人生で初めて飛行機に乗りましたが、隣の席が仲の良い友達だった為、話しながら楽しく過ごることができました。沖縄に着いてからは、まず、美ら海水族館に行きました。様々な魚が泳いでいた中でも特に、ジンベエザメが印象に残っています。優雅に泳ぎ、大きな口で小さなご飯を食べていたので驚きました。

二日目は、平和学習でした。戦争で亡くなってしまう方々に向けて、献花し、平和を祈りました。また、資料館では、講話や資料で当時の悲惨さを目の当たりにし、僕よりも年下の子がいたと思うと心苦しい気持ちになりました。現在も戦争が海外で行われていますが、平和が一番だと気づいて欲しいです。

三日目は、四つのマリンスポーツを楽しみました。特に、シーカヤックは、思いっきり漕いだので印象に残っています。四日目は、沖縄ワールドに行き、家族の為に土産を買いました。そして、本場のエイサーを見ることもできました。

僕たちにとって、高校生活初めての宿泊旅行となりましたが、思い出をたくさん作ることができました。友達と協力をして四日間過ごせたことも、今後の学校生活に活かせると思います。



### 「何かに熱中すること」

濱谷 優貴

私は高校生の時、全国大会に行くような部活に所属していました。練習は毎日、お盆休みは無く、唯一覚えていた休日は元旦と行事の振替休日くらいでしょうか。そして、引退が決まったら思ったら、次は大学受験に向けての勉強と、とても忙しい高校三年間だったと思います。そのため、友人と外出した記憶はほぼありません。

しかし、このような三年間でも「最高だった」と言える思い出となっています。それはなぜかという「常に何かに熱中し、充実感や達成感にあふれていた」からだだと思います。皆さんは何か熱中できていますか、何事も中途半端に終わらせていませんか。勉強でも部活でも趣味でもいいのです。それが皆さんの自信や夢に繋がっていきます。

ぜひ高校三年間を「充実していた」と言えるものにしてください。

